

## ●現在の会員状況（2012年6月現在）

正会員（個人）	91名
正会員（団体）	5団体
賛助会員（個人）	52名
賛助会員（団体）	2団体



また新たに沢山の方が入会してくださ  
り、寄付もしていただきました!!  
皆様のご支援、心より感謝いたします。  
今後もよろしくお願い致します。

## ～ピピオからのお知らせ掲示板～

### お 願 い

- ・「ピピオ子どもセンター」は、主に会員の会費と寄付によって運営される団体であり、多くの方のご支援がなければ成り立ちません。そのため「ピピオ子どもセンター」では、法人案内のパンフレットを作成し、広く入会申込及び寄付の募集をさせていただいております。パンフレットの送付を希望される方は事務局まで御連絡下さい。
- ・NPO法人ピピオ子どもセンターでは、今後自立援助ホームの開設も検討しており、家具家電等を募集することもあるかと思っております。その際もご協力頂ければ幸いです。

発行者 特定非営利活動法人ピピオ子どもセンター 事務局  
〒730-0005 広島市中区西白鳥町16番7号NIDIビル202 那須法律事務所内  
TEL: 082-221-9563 FAX: 082-299-7629

# ひなぼと



～NPO法人ピピオ子どもセンター 会報～  
vol.6

平成24年6月20日

## NPO法人ピピオ子どもセンター第3回総会が開催されました!!

皆さま方におかれましては、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

さて、平成24年5月19日に、広島弁護士会5階会議室において、NPO法人ピピオ子どもセンターの第3回総会が開催されました。

総会では、定足数を満たす56名（委任状出席を含む）の会員の皆様にご出席いただき、平成23年度事業報告・決算報告及び平成24年度事業計画・予算計画についての承認をいただきました。

また、広島文化学園大学教授の磯部省三氏を今年度から新たに理事として迎え入れる件につき、満場一致で承認されました。ありがとうございました。

子どもシェルター「ピピオの家」で実際に子ども達の受け入れを開始してから1年が経ち、自立援助ホームの設立も目指す当法人にとって、磯部氏が理事として新たに加わっていただくことをとても心強く感じております。磯部氏のご協力を得て、さらに活動の幅をひろげていければと思っております。

会員の皆様におかれましては、総会の運営にご協力いただきありがとうございました。今年度もいろいろお願いすることもあるかと思っておりますが、引き続きご協力いただきますよう何卒よろしくお願いいたします。

## 会員の皆様へのご挨拶～第6回～ 中本忠子

NPO法人ピピオ子どもセンターが開設されて一年が経ちましたが、関わっている私たちは、毎日が勉強中です。さまざまなことを教えてもらいながら地道な歩みを重ねていくことではないかと思っております。

人は悲しいこと、つらいことがあれば、誰かに話を聞いてもらいたいという気持ちが強いので、聞く方はかまえず自然体で聞くようにしたいと思います。

寄り添う気持ちを大切に、やってみせ、言って聞かせ、させてみて、ほめてやれば子ども達は動きます。

私達は、子ども達にかかわる集まりなので、熱い気持ちをもった共通の話題が多くあると思います。お互いに日々研鑽を積んでいきましょう。

NPO法人ピピオ子どもセンター

理事 中本忠子



## ●子どもの日記念記念イベント「子ども達に寄り添う」が開催されました!

去る平成24年4月29日、広島市青少年センターにて、当法人も後援した「子どもの日記念イベント2012「子ども達に寄り添う」～付添人制度の充実と自立援助ホームの設立を目指して～というシンポジウムが開催されました。

シンポジウムでは、第一部で、広島市立舟入高校・沼田高校演劇部と弁護士らによる演劇「スマイルフォトグラフ」が上演されました。当センターの会員も数多く演者として参加しました。自立援助ホームに入所した姉と少年事件の審判を受けることになった弟が周囲の大人たちと関わりながら、自らの人生を考えていくというストーリーで、少年事件の審判の際少年に寄り添う役目を担う付添人制度の充実と自立援助ホームの設立というシンポジウムのテーマをわかりやすく上演しました。



また、第二部では、ジャーナリストの江川紹子さんが自らの体験をもとに「少年事件を考える」という内容の講演をしてくださいました。非行を犯してしまった少年にとって、大人である付添人が側にいることがどれほど大切なことかという話から、すべての非行少年に付添人を付けるべきと力説していただきました。

好天にも恵まれ、当日は約300人の方にご来場いただきました。来場者の方からは「演劇も講演もわかりやすく、テーマについての理解が深まった。」「自分も何か力になれることがあれば協力したい。」等の声をいただきました。

当法人は、自立援助ホームの設立を目指しております。今後もより多くの方に、自立援助ホームについて知っていただき、広くご協力をいただければと思っております。その意味で、非常に有意義なシンポジウムになったと思っております。ご協力いただいた皆様、本当にありがとうございました。